

# 入社から10年間のモデルケース

見習い (補助作業)	入社日	入社日	入社初日に重要事項の説明を行います。 仕事の内容の確認と説明を行います。
	ステップ 1	～1ヶ月	現場に必要な左官の最低限の予備知識の教育や、 <b>塗り壁トレーニング</b> を行います。集中育成プログラムが修了するまで現場には入場しません。現場の足場上などで作業を行うために必要な「 <b>足場の組立て等作業従事者特別教育（6時間）</b> 」を受講して頂きます。
	1ヶ月～	特別教育受講後、現場で作業を開始します。 職長や先輩方の指示に従い、左官作業の補助をして経験を積みます。 雨天などの理由で、現場での作業が行えない日は本社道場で塗り壁トレーニングなどを行います。	
見習い から 職人へ	2	～1年	現場で補助作業にも慣れてくる頃です。 雨天などの理由で、現場での作業が行えない日は本社道場で塗り壁トレーニングなどを行います。職業訓練校などを利用して左官の知識・技能を高める事も可能になりますので、将来どのように成長していきたいと考えているのか意思確認を行います。
	3 4	～2年	実務経験2年で「 <b>2級技能士</b> 」の試験に挑戦できます。 挑戦する場合には会社として試験課題を練習できる時間と環境を用意してサポートします。
職人へ	5 6	～3年	日頃から向上心を持って仕事をしている方や、成長の早い人は簡単な作業は自分だけでできるようになります。 職人上がりが見えてくる時期です。
	7 8	～5年	2級技能士の取得から3年の実務経験で国家資格「 <b>1級技能士</b> 」の試験に挑戦できます。（資格取得最短コース 最短キャリアパス） 一般的に「職人」として周囲から認められるのもこの時期となります。
職人から 職長へ	9	～7年	実務経験7年で「 <b>1級技能士</b> 」受験資格を得ます。（2級未取得の場合） 能力のある方は職長を務めてもらいます。
	10 その後	～10年 その後	左官・タイル建設技能者が取得できる資格の中で 最高峰の国家資格「 <b>登録基幹技能者</b> 」に挑戦できる時期です。 職長にも慣れてきて、自分の思い通りに指示を出して作業を円滑に行う事ができるとおもいます。

※能力の向上・技術の習得には個人差があります。上記の流れはあくまでも標準的なモデルケースです。